

わんぱく学級活動記録



★★★2月「モルック体験会」★★★

2月4日、わんぱく学級にて「モルック体験会」を行いました。

昨年に引き続きのモルック体験。ほとんどの学級生が、未体験ということで最初に行った青年団によるデモンストレーションを熱心に聞いていました。モルックはフィンランド発祥の棒倒しのスポーツです。スクワットのようなしゃがむ動作を意味する言葉であり、カレリア地方に古くから伝わるゲームである kyykkä(キイッカ)がモルックの起源となります。

投げる棒とされるモルックと倒すピンのスキttlの2つの道具を使った誰でも簡単にできるスポーツです。モルックの競技人口は、道具やルールの手軽さから年々増加しています。モルックのルールは、モルックを用いてスキttlを倒した本数やスキttl上の数字が得点に加算され、先に50点ちょうどに到達したチームが勝利の簡単なルールです。慣れてくると歓声も起きて、白熱した試合を展開していました。点数を競う競技なので、戦略も必要となってきます。どのピンを何個倒せばよいか。みんな一生懸命議論しながら楽しんでくれていました。

休憩時間を使って、「未来の鬼北町はどうなってる?」という簡単なプリントをしてもらいました。それぞれユニークな意見も出て、笑いもこぼれるなど楽しんでくれたようです。「将来は鬼北町に住みたい。」と回答してくれた子がほとんどで、子ども達にとっては今の鬼北町は住みやすいまちとなっているのだなと実感しました。地元が好きだと言ってくれる子が育っていることを大変幸せに感じる一コマでした。



デモンストレーションのようす



真剣に聞いています



正確に狙って・・・



未来の鬼北町は?



なんて書こうかな?



おもしろいこと思いついた!

◀ 白熱！クロッケー館長杯 ▶

2月22日（水）、クロッケー館長杯を開催しました。

お天気にも恵まれ、陽気な日差しの中、クロッケー部の皆さんが躍動していました。

「高月クラブ」「奈良クラブ」「近永クラブ」の3チーム総当たり戦です。

失敗しても「大丈夫、大丈夫！次があるから。」と励まし合いながらプレーされていました。

結果は、近永クラブの優勝となりました。日頃の練習の成果が発揮できた方も、できなかった方もおられたと思いますが、

最後は全員で健闘を称えあった良い大会となりました。



部長の竹田さんによる説明



うまくいった？



狙いを定めて！



ナイスショット！



渾身の一打を



おめでとうございます♪



第3回 LCS 開催



2月28日（火）に第3回レディース・カルチャー・スクールを開講しました。

今回は、雛祭りの季節に合わせて、「紙を使った梅の花づくり」をしました。

難しい加工はないのですが、花びらのバランスが難しく、皆さん悪戦苦闘しながら作業されていました。つるし雛も作ろうと思ったのですが、時間が足りなかったため次回へ持ち越しとなりました。今回作った梅の花は近永公民館にも飾ってあります。近くを通りかかった際には、是非立ち寄って見てください。



春らしい配色♪



お昼の暖かい時間を利用して



次回の講座も楽しみ♪

きほくの里人形劇を開催しました

2月26日（日）近永公民館にて、きほくの里人形劇を開催しました。

2年ぶりに劇団すぎのこさんをお呼びすることができ、生の人形劇を開催することができました。演目は「たのきゅうのうわばみだいじ」でした。うわばみの迫力にびっくりしたのか。お母さんにしがみついている子もいました。怖かったね。最後は、キャストの皆さんと記念撮影。かわいいお人形さんとハイタッチするなど、子ども達にとっても嬉しい体験となったようです。終了後のアンケートでは、「来年度も見にきたい。」と書いてくださっているご家族もたくさんおられました。次年度も開催できるように、すぎのこさんと準備を進めたいと思います。ご来場ありがとうございました。



始まる前の準備体操



正座の子ども達。お行儀良いですね♪



子猫のかわいい劇



迫力ある人形劇！



座席の近くまで来てくれました♪



劇団の方と記念撮影

図書新刊 入りました♪



近永公民館の貸出図書。
新刊のご案内です。



名探偵のままでいて 小西 マサテル

「認知症の老人」が「名探偵」たりうるのか？
孫娘の持ち込む様々な「謎」に挑む老人。

日々の出来事の果てにある真相とは――？ 認知症の祖父が安楽椅子探偵となり、不可能犯罪に対する名推理を披露する連作ミステリー！。かつて小学校の校長だった切れ者の祖父は、七十一歳となった現在、幻視や記憶障害といった症状の現れるレビー小体型認知症を患い、介護を受けながら暮らしていた。しかし、孫娘の楓が身の回りで生じた謎について話して聞かせると、祖父の知性は生き生きと働きを取り戻すのだった！ そんな中、やがて楓の人生に関わる重大な事件が…。2023年第21回『このミステリーがすごい！』大賞大賞受賞作。



「ニューヨーク officialchannel より」より



教誨 柚月 裕子

女性死刑囚の心に迫る本格的長編犯罪小説！

幼女二人を殺害した女性死刑囚が最期に遺した言葉――「約束は守ったよ、褒めて」

吉沢香純と母の静江は、遠縁の死刑囚三原響子から身柄引受人に指名され、刑の執行後に東京拘置所で遺骨と遺品を受け取った。響子は十年前、我が子も含む女児二人を殺めたとされた。香純は、響子の遺骨を三原家の墓におさめてもらうため、菩提寺がある青森県相野町を単身訪れる。香純は、響子が最期に遺した言葉の真意を探るため、事件を知る関係者と面会を重ねてゆく。

DRY 原田 ひ香

離婚し子供たちと引き離され、金銭的に困窮した藍は、祖母と母のいる実家に戻る。生活力もなく喧嘩の絶えない藍たちに手を差し伸べたのは、隣に住む美代子だった。祖父を介護して暮らしているという美代子に助けられ親しくなるうち、彼女のある秘密が知れる…。貧困、ケア、孤独。背負われる業と役割に、女たちはどう抗えるのか。迫真と驚愕の犯罪小説。